

## 2019年度 決算概要

2020年5月13日  
デンカ株式会社

### 1. 業績

(単位:億円)

	2019年度 通期実績 (4-3月)	2018年度 通期実績 (4-3月)	増 減	2020年度 通期予想 (4-3月)	増 減
売上高	3,808	4,131	△ 323	3,600	△ 208
営業利益	316	342	△ 26	310	△ 6
経常利益	300	328	△ 28	290	△ 10
親会社株主に帰属する当期純利益	227	250	△ 23	210	△ 17

### 2. 総括(前年比)

- ・当社グループは、企業理念“ The Denka Value ”を実現すべく、2018年度より5か年の経営計画「Denka Value-Up」の3つの成長ビジョン「スペシャリティーの融合体」「持続的成長」「健全な成長」に基づき、2つの成長戦略「事業ポートフォリオの変革」と「革新的プロセスの導入」を推進し、業容の拡大と収益性向上に注力いたしました。
- ・この結果、当期の業績は、球状アルミナ、アセチレンブラック等車両電動化関連製品の販売好調が継続し、デンカ生研株式会社の検査試薬やインフルエンザワクチンの販売も前年を上回りましたが、その一方で米中貿易摩擦などからクロロプレンゴム等の販売が低調に推移したことに加え、2020年1月以降は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で販売が落ち込んだことなどから、売上高は323億円減収の3,808億円(前年比7.8%減)となりました。
- 利益面でも、スチレンモノマーの非定修年であったことなどのプラス要因を、経営計画に沿った取り組みの実施に伴う先行投資や固定費負担増に、クロロプレンゴムをはじめとした製品の販売数量の減少などが加わったことでマイナス要因が大きく上回り、営業利益は316億円(同7.7%減)、経常利益は300億円(同8.5%減)、親会社株主に帰属する当期純利益は227億円(同9.4%減)と、それぞれ減益となりました。

### 3. 2020年度予想

- ・2020年度の経済環境は、新型コロナウイルス感染拡大防止のために世界各国で経済活動が大幅に制限されており、厳しい状況が続くものと予想されます。かかる環境下、当社は、メガトレンドを視野においたスペシャリティー事業の成長加速化と先端的デジタル技術の導入によるプロセス革新に引き続き取り組むとともに、新型コロナウイルスがもたらす経済変動も踏まえて、「Denka Value-Up」を推進してまいります。
- ・2021年3月期の業績予想につきましては、新型コロナウイルス感染拡大の影響が、第2四半期(2020年7月1日から2020年9月30日まで)以降徐々に収束に向かい、第3四半期(2020年10月1日から2020年12月31日まで)以降は正常化するとの前提のもと、売上高3,600億円、営業利益310億円、経常利益290億円、親会社株主に帰属する当期純利益210億円と予想しております。
- なお、業績予想は、新型コロナウイルス感染症の収束時期や経済環境の動向により大きく異なる可能性があります。

### 4. 参考数値・前提

(単位:億円)

	2019年度 通期実績	2018年度 通期実績	増 減	2020年度 通期予想	増 減	
投資	設備投資	342	327	15	470	101
	M & A 他	27	1	26		
	計	369	328	41		
減価償却費	225	229	△ 4	240	15	
研究開発費	150	146	5	160	10	
有利子負債残高	1,343	1,121	222	1,520	177	

  

	2019年度 通期実績	2018年度 通期実績	2020年度 通期予想
為替レート [円/\$]	109.1	110.7	108.0
国産ナフサ [円/kl]	42,650	49,500	32,000

## 5.セグメント別状況(前年比)

- ・エラストマー・機能樹脂部門は、スチレンモノマープラントの非定修年であったことに加え、デンカシンガポール社のスチレン系樹脂のспредは改善しましたが、主にクロロプレンゴムの販売数量が全体的な需要の減少から前年を下回ったことなどにより、減益となりました。
- ・インフラ・ソーシャルソリューション部門は、製品価格改定による収支改善が進んだことなどにより、通期の営業利益は黒字化しました。
- ・電子・先端プロダクツ部門は、電子部品・半導体関連分野向けの高機能フィルムや球状溶融シリカファイバーの販売が前年を下回りましたが、球状アルミナや高純度導電性カーボンブラック等の車両電動化関連製品の販売は順調に伸長しました。生産体制強化に伴う固定費負担の増加はありましたが、車両電動化関連製品の販売増による効果が上回り、増益となりました。
- ・生活・環境プロダクツ部門は、プラスチック雨どいおよび工業用テープの販売は堅調に推移し、食品包材用シートおよびその加工品の販売も概ね前年並みとなりましたが、合繊かつら用原糸”トヨカロン”の販売は前年を下回り、減益となりました。
- ・ライフイノベーション部門は、デンカ生研株式会社の検査試薬やインフルエンザワクチンの販売が前年を上回ったことにより増益となりました。

(単位:億円)

連結売上高・営業利益(実績・予想)		2019年度 通期実績	2018年度 通期実績	増 減	2020年度 通期予想	増 減
エラストマー・ 機能樹脂	売上高	1,493	1,792	△ 299	1,250	△ 243
	営業利益	109	142	△ 33	75	△ 34
インフラ・ソーシャル ソリューション	売上高	548	548	△ 0	550	2
	営業利益	3	△ 3	5	20	17
電子・先端 プロダクツ	売上高	680	671	9	730	50
	営業利益	124	118	6	135	11
生活・環境 プロダクツ	売上高	370	390	△ 21	330	△ 40
	営業利益	1	9	△ 8	5	4
ライフ イノベーション	売上高	355	341	14	380	25
	営業利益	70	63	7	70	0
その他 消去差	売上高	362	388	△ 26	360	△ 2
	営業利益	9	13	△ 4	5	△ 4
合 計	売上高	3,808	4,131	△ 323	3,600	△ 208
	営業利益	316	342	△ 26	310	△ 6

連結売上高増減	売上高				
	2019年度 通期実績	2018年度 通期実績	増 減	販売価格差	数量差
エラストマー・機能樹脂	1,493	1,792	△ 299	△ 175	△ 124
インフラ・ソーシャルソリューション	548	548	△ 0	15	△ 16
電子・先端プロダクツ	680	671	9	11	△ 1
生活・環境プロダクツ	370	390	△ 21	△ 9	△ 11
ライフイノベーション	355	341	14	△ 4	18
そ の 他	362	388	△ 26	-	△ 26
合 計	3,808	4,131	△ 323	△ 163	△ 161

連結営業利益増減	営業利益					
	2019年度 通期実績	2018年度 通期実績	増 減	販売価格差	数量差	コスト差等
エラストマー・機能樹脂	109	142	△ 33	△ 175	△ 62	204
インフラ・ソーシャルソリューション	3	△ 3	5	15	△ 5	△ 5
電子・先端プロダクツ	124	118	6	11	4	△ 8
生活・環境プロダクツ	1	9	△ 8	△ 9	△ 7	8
ライフイノベーション	70	63	7	△ 4	10	0
そ の 他	9	13	△ 4	-	0	△ 5
合 計	316	342	△ 26	△ 163	△ 59	195